

## オリエンタルハイブリッド系ゆりの作型

園試野菜花き部

### 1. 背景とねらい

オリエンタルハイブリッド系のゆりは、豪華な花容と希少性から高価に取り引きされており、注目されている品目である。

ゆりは、冷涼地での栽培に向いているため、今後本県でも栽培が増えると思われるが、これまで栽培例が少なく、作型、栽培法が明かでなかった。そこで、代表的な品種について栽培試験を行ったところ、季咲および球根冷蔵による8～9月出荷の抑制栽培の作型が判明したので、参考に供する。

### 2. 技術の内容

1) 季咲および8～9月出荷の作型は次の通りである（表-1）。

表-1 定植期、採花期

品 種 名	作 型	定 植 期	採 花 期	到花日数
カサブランカ	季 咲	10～11月	7月下旬	—
	抑 制	5月上旬	8月上旬	80～90日
		6月上旬	8月下旬	70～80日
		7月上旬	9月下旬	70～80日
ル・レーブ	季 咲	10～11月	7月下旬	—
	抑 制	5月上旬	7月中旬	70日
		6月上旬	8月上旬	60日
		7月上旬	8月下旬	50日

### 2) 適応地域

県下全域

### 3. 指導上の留意事項

1) 抑制栽培の採花期は、気象条件、栽培地により多少の差がある。定植から採花までの積算気温が、カサブランカでは1,600℃程度、ル・レーブでは、1,100～1,200℃となるので目安とする（表-2）。

2)球根が大きいほど切花品質（切花長、花数）が向上する。定植期が遅いほど大きい球根を使用したほうが良いが、これらのゆりは一般に4輪前後あれば充分とされているので、適当な大きさの球根を用いる。

抑制栽培の場合、カサブランカでは球重80g以上（球周16～18cm）、ル・レーブでは球重70g以上（球周14～16cm）のものを用いる。

### 3)球根貯蔵方法

(1)茎葉が枯れた頃に掘り上げ、水洗、選別、消毒を行う。

(2)軽く湿らせたオガクズをパッキングとして箱詰めするが、ル・レーブの場合は水分を少な目にする。ポリフィルム等で密閉するのは良くない。

(3)1℃で30～60日間予冷して耐凍性をもたせたいうえで、-2℃に下げ本冷蔵に移す。このとき、-2℃より低いと

凍害を受け、温度が高いと芽が動くので、精度が高く温度変化の少ない冷蔵庫を使用する。

(4)定植日の7～5日前に出庫し、10～15℃でゆっくり解凍する。水をかけるなどして急に温度を上げると障害を受けるので注意する。

## 4. 試験成績

表-2 栽花始、切花品質

(63～2年、園試、沢内)

品 種 名	定 植 日 (年月日)	球根重 (g)	採 花 始 (月日)	到花日数 (日)	積算気温 (℃)	切 花 長 〔草丈〕 (cm)	花 数 (個)
カサブランカ	63.11.29	—	7.26	—	—	91.4	3.7
	1. 5. 8	—	8. 4	88	1,648	92.1	4.1
	2. 6.11	93.9	8.24	74	1,557	〔 84 〕	4.3
	2. 7.11	95.0	9.24	75	1,630	〔 88 〕	3.6
ル・レーブ	63.11.29	—	6.30	—	—	89.1	6.0
	1. 5. 8	—	7.17	70	1,204	〔 70 〕	4.5
	2. 6.11	57.8	8. 9	59	1,211	〔 53 〕	3.3
	2. 7.11	128.3	8.30	49	1,132	〔 63 〕	6.0